

質の高い平和集会！

2学期がスタートし、1週間が経ちました。生徒達は、元気に登校しています。また、8月9日が台風の影響で登校日ができませんでしたので、平和集会を始業式の9月1日に実施しました。午前中は、始業式を行い、午後から平和集会を行いました。初めに黙祷を行い、各学年からの平和についての発表、生徒会と実行委員による劇を行いました。発表者は、よく調べており、堂々とした発表でした。劇についても本物の劇団顔負けの演技で、見ごたえのある劇でした。生徒たちの頑張りを見ることができ、心洗われる思いでした。

まさに、合言葉の「できる！できる！できる！やればできる！」を実践した生徒達でした。

西有家中生徒会平和宣言1. 感謝の気持ちを大切にします。1. お互いの個性を認め合います。1. 誰にでも平等に接します。1. 相手を思いやり尊重します。1 笑顔を増やし、安心安全な学校にしていきます。

<真剣に聞く生徒たちと上手に発表する代表生徒>

## 「平和を考える」

78年前に、長崎市で被爆された下川作江さんが平和について次のように話されていました。「平和とは、人の心の痛みが分かること」。戦争は、相手の心の痛みなど考えては、できません。人の心の痛みがわかれば、人を傷つけたりできません。まして、人を殺したりできるはずがありません。

「平和とは人の心の痛みがわかること」平和の反対は、「無関心」とも言われます。身近な所からこの平和について考えてほしいと思います。自分のそばにいる人に関心を持ち、その人がどんな気持ちでいるのかを考えることができる西有家中生であってほしいと思います。

平和を考える時、身近な平和から実現させていく、身近な平和が広がり、世界の平和につながっていくと考えます。身近な平和について考えるためには、自分の周りの人がどんな思いでいるのか、どんな気持ちでいるのかを感じる事が大切です。身近な人の気持ちが分かる西中生であってほしいです。

おめでとう！！

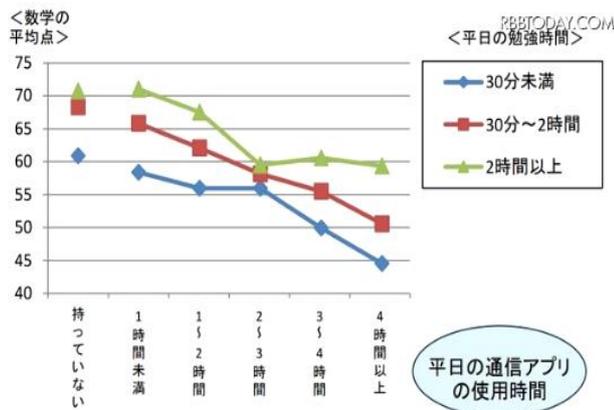
南島原市民スポーツ大会

- 卓球競技男子 第3位 川上夏樹
- 陸上競技
  - 100m 第3位 中村凌月
  - 1500m 第2位 林田瑛太
  - 〃 第3位 中村晃熙
  - 400mR 優勝 男子Bチーム
  - 準優勝 男子Aチーム

## 携帯・スマホの使用時間と成績との関係

仙台市教育委員会と東北大学が協力し、小中学生のスマホや携帯の使用と学校の成績との関係を調査・解析されています。その調査チーム「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト」によると、平日にライン等の無料通信アプリを使用すると、睡眠時間や家庭学習時間に関係なく、使用時間に応じて学力が低下するという調査結果が出たそうです。スマホや携帯を長時間使用すると、いくら勉強していても成績が下がるという結果が出ています。

2015年



上のグラフに示されているように、2時間以上家庭学習する人も、2～3時間以上スマホ等を使用すると、スマホ等を持っていない、ほとんど家庭学習しない人と成績が同じになっています。調査研究したプロジェクトによると、「通信アプリの使用時間が長くなるほど、生徒たちの頭の中から習得した学習内容が消えてなくなった」と考察しています。また、家できちんと勉強している生徒でも、スマホを使う時間が長ければ、家で勉強しない生徒よりも学力が下がっている傾向が統計的に表れたとまとめています。生徒の皆さんは、この結果をどう感じるでしょうか。保護者の皆さんはどう思われたでしょうか。スマホ、ゲームの使用時間は、子どもだけでは、制限できません。子どもを守るためにも、是非ご家庭でルールを決めてください。



<あいさつをする役者たち>

## ブレイクコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください

### 人を喜ばせる体験は夢の実現へつながる！

1人の女の子の話を紹介したい。その女の子は、小学生の時、遠くの市から転校してきた。おとなしく、友だちも多くないまま中学校に入学した。ある日、同じクラスの男子生徒からの意地悪がきっかけで学校に行けなくなった。家から外に出られないその子に会いに家庭訪問する。「玄関の外に出るところを想像してごらん！」そう言うだけで過呼吸を起こしそうになった。

その子の特技はお菓子作り。家庭訪問のたびに手作りのお菓子でもてなしてくれた。彼女が好きな料理本と一緒に眺めながら、「きっとお菓子屋さんになれるよ」と何度も口にした。やがて彼女は勇気を出して夜の学校へやってきて、職員室にいる先生方へ手作りのお菓子を配ってくれた。食べた先生全員が「ありがとう！すごくおいしいよ！上手だね」と喜びながらほめてくれた。人に喜んでもらえるという体験は彼女を変えた。大きな勇気と小さな一歩を繰り返すうちに彼女は相談室まで登校できるようになった。相談室の先生やカウンセラーの先生方に手作りのお菓子を振る舞った。彼女は自分の居場所を見つけた。教室には戻ることができなかったものの修学旅行には行くことができた。中学校卒業後は高校に進学し、夢の実現のため専門学校に進んだ。数年後、結婚式の招待状が届いた。彼女は夢を叶え、パティシエになっていた。結婚式では祝辞を述べた。「中学生時代の彼女は、控えめでありながら本当に心優しい生徒でした。困っている人がいれば横で話を聞いてあげ、そっと励ましてあげる。彼女に励まされ、癒やされ元気をもらった生徒を私はたくさん知っています。本当にすばらしい思いやりにあふれる生徒でした。」中学時代に教室には入れなかったことを伏せたまま、お祝いの言葉を贈った。

しかし、彼女は最後の両親への挨拶でこう言った。「お母さん、中学校の時、学校にあんまりいけなかった私を支えてくれてありがとう」彼女の歩みは、そのまま私の誇りでもある。